



東日本大震災で被災した陸前高田市

木材業界の震災対策

東日本大震災。マグネチュード9.0、史上第3位の大地震が発生、同時に国内津波史上では最大の大津波が襲来し被災地は壊滅状態に陥った。死者の数は阪神淡路大震災を突破、自然災害では最大規模となった。被災地の方々には衷心よりお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復旧復興を祈念申し上げます。

日本人は過去の国難を乗り越えた。関東大震災や敗戦で廃墟から叡智と不屈不倒の精神で、技術を生み育て、使いこなして今日の繁栄を築いてきた。今回の大震災も取捨できるものと確信している。

木と共に生きて

細田安治

26

1. 業界挙げて協同の力

木材業界は当面、震災対策に専念すべきだ。被災地復旧資材を最優先に供給し全面的に協力すべきである。時には緊急時対策に振り回されることもあるがここは一番の踏ん張りどころだ。

個々の力は小さいがまとまれば大きなことができる。「小なりといえども巨象を倒す」の例えもあり、ここは全国団体の卓越したリーダーのもと団結して供給責任を果たすべき時である。

提案

この時は日栄の平田社長を(現名誉会長) 中心に神奈川県木材業者が団結、連名でS社に抗議文を提出、S社より「深くお詫言する」と回答を得た。(参照「木材流通と私の経営 平田周次伝」) 今こそ業界あげて木材、木造住宅の特徴を積極的にPRしなければならぬ。

私が考える仮説 (下)

2. 買占め出し惜しみ 真つ平御免

間違っても買占めや出し惜しみ、投機的思惑などに走ってはならない。ここは商人道の原点に帰り道を踏み外さぬよう正しい王道を歩むべきである。

3. ポジティブ キャンペーン

復旧が一段落し本格的な復興に入るとき大きな心配がある。

1977年(昭和52年)、宮城県沖地震の時のネガティブキャンペーンが35年ぶりにまた始まるのではと危惧している。

1. 新しい街の創造

35年前の宮城県沖地震の経験を踏まえ高い堤防を築き避難場所を決め津波に備えたが、今回はマグネチュード9.0の大地震と想定外の大津波により自然災害では国内史上最大の被害となった。この災害を防止するにはどうすればよいか。

海岸線や低いところには住宅をつくらぬ。山を利用する。山を崩して街を作り周囲を植林し緑で囲む。海岸から数分離れた沖合に巨大な堤防を築き今回の津波にも耐えられる高さの巨大な防潮堤を築く。防潮堤の内側には、港湾を整備し近海遠洋漁業の基地とする。

また、養殖漁業のエリアをつくり、現在の養殖漁業を廃止させマグロなど高級魚の養殖を展開する。既存の力牛養殖などを更に大規模な事業に発展させてゆく。

復興に関してはずでに新聞等メディアを通じて多くの識者から多方面にわたる提言が寄せられているが、そこでも指摘されているように全く新しい発想に基づく街づくり、産業起しが実行されねばならないと思う。

2. 住宅は200年住宅

さらには住宅はどうするのか? これも解けぬ方程式だが、200年住宅の建設だ。それも躯体の構造部分は耐震構造の大断面の木材や集成材でしっかりと固め、内部は複設造り、間仕切りは可変自在の作りである。

年代の変化に従い間仕切りは可変自在とし3世代まで居住の大空間を作り上げる。内部インテリアも同様の可変自在材とし快適な空間を作り上げる。年代と家族構成の代わりめには可変間仕切りと可変インテリアで調整し構成が変わってもより便利により快適な空間を演出し、健康に配慮した木材をポイントに使用する。自然素材ソーラーシステムの活用などエネルギー省資源型の木造住宅の建設を提案する。

|| 次回は9日付 ||
(細田木材工業(株)会長)